疫病退散の霊獣『クタベ』の紹介

昨年から新型コロナウイルスの流行に伴い、疫病退散の妖怪『アマビエ』が話題になりましたが、永隣寺本堂の天井画には、同じような霊力をもつ『クタベ』という霊獣が描かれていることがわかりました。

永隣寺本堂天井画の『クタベ』。顔は人のようで体は牛のような獣、頭に２本の角、背中には４本の角がある。胴には左右に３個ずつの目がある。

《クタベの由来》

富山県での言い伝えによると、江戸末期、立山に薬となる原料を掘りに来た者の前に『クタベ』が突然姿を現し、「4、5 年の内に原因不明の難病が流行するが、我が姿を見た者はその難を逃れられる。」と告げたという。それ以後に疫病などの難を逃れるために『クタベ』の絵があちらこちらで描かれたものと思われる。この絵の『クタベ』は、中国に古来より伝わる『ハクタク』という神獣と同じものであると考えられる。

『クタベ』の霊妙不可思議な力により、この絵をご覧になった方が、新型コロナウイルスの難を逃れ、健康にお過ごしいただけることをお祈りいたします。